

〈修士論文要旨〉

四国遍路の研究

渥 美 良 太*

現在、史上空前の遍路ブームと言えるほど遍路の数が増加している。最近では観光バスなどで巡礼する人がほとんどである。そんな時代の中でも、昔ながらの歩き遍路の数も決して少なくはない。何故人は四国遍路に行くのだろうか。日本国内には西国三十三カ所など、そのほかの巡礼地も多数存在する。しかし、よほどの小規模なものでもない限り、歩いて巡礼するのは極めてまれであるともいわれる。にも関わらず、四国遍路では全行程1,400kmといわれる超長距離を徒歩で巡拝する人が後を絶たない。遍路道の沿線に住んでいると、歩き遍路を見かけない日はないほどである。何故四国巡礼だけが遍路と称されるのか。その他の巡礼や、お参りなどとの違いについての考察を論じる。その上で四国遍路についての概要と成立過程、遍路の意味について論述していく。さらに、そこから派生した所謂ウツシ霊場と呼ばれるものについて述べる。そして、四国遍路の世界遺産化への取り組みについての現状を考察し、これからの改善点、どのようにすれば世界遺産として登録されるかを検討する。